石川県造園緑化建設協会からのお知らせ

（令和４年１１月２１日）

第８回理事会（１１月１８日）での議案、協議、報告事項

・各支部、各部会からの報告、連絡

金沢支部

・１１月１８日(金)11時からむさし交差点の第２回アドプトを実施。

・協議事項

・石川県土木部長への要望について

・１０月２０日(金)に石川県土木部長に「要望書」と「リニューアル整備への提案」を手渡しました。

・石川県土木部からは部長、技監、参事、次長、公園緑地課長が出席しました。

・創立４０周年記念講演会について

・１０月２１日(金)に東京都市大学特別教授の涌井先生をお迎えして、「創立４０周年記念講演会」を石川県立音楽堂コンサートホールにおいて開催いたしました。

・当日は、約１２０名の参加者が熱心に聴講しました。

・「緑と花のまちづくり推進員養成講座」について

・１０月２３日(日)に木場潟公園中央園地において、「推進員養成講座」を開催しました。

・午前中は、樹木剪定、雪吊り実習。午後は樹木の管理について、講義を行いました。

・受講者は、熱心に聴講、実習を行い。雪吊りした樹木の前で記念写真を撮りました。

推進員養成講座

・県外施設視察研修について

・１１月１６日(水)から１７日(木)にかけて、県外施設視察研修として、名古屋方面の施設を見学しました。

・１日目は名城公園のPARK　PF１施設として「トナリノ」を視察しました。

・２日目は、熱田神宮、徳川美樹館、そして、今回の研修の目玉である劇団四季の「キャッツ」を観劇しました。

熱田神宮

徳川美術館

劇団四季会場

協会の活動等についてご意見がございましたら事務局までご連絡ください。

令和４年10月21日（金）　建設工業新聞

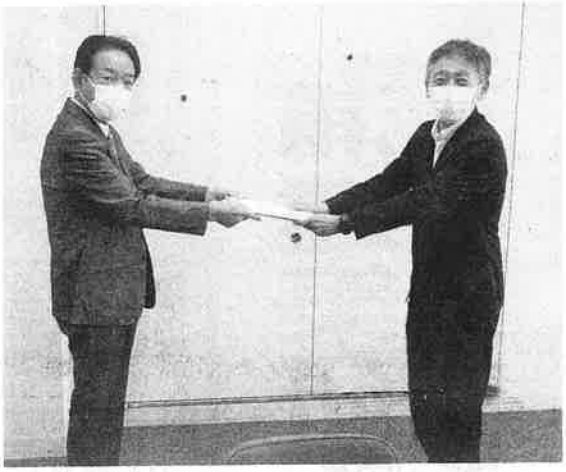
公園リニューアル整備を提案

石川県造園緑化建設協会が県土木部に

要望書も提出

石川県造園緑化建設協会（岸省三会長）は20日、金沢市鞍月の石川県庁を訪れ、鈴見裕司県土木部長に要望書および県営公園のリニューアル整備への提案書を提出した。

当日は、協会側から岸会長をはじめ、笠井順二、清水俊栄、後秀夫副会長、植村隆央造園部会長、北総一朗総務企画部会長、猿田秀一常務理事、県側からは鈴見土木部長のほか、口田光也技監、桜井亘参事、新田町弘幸、本田琢両次長、能登茂和公園緑地課長が出席し、岸会長から鈴見土木部長に要望書と公園のリニューアル整備への提案書が手渡された。



鈴見土木部長㊨に要望書を手渡す岸会長＝20日、石川県庁

要望書の内容は、県営公園のリニューアル整備を含めた予算の確保と現在、基本構想が進められている西部緑地公園の緑地の予算の確保などとなっている。

同協会では、２０２１年度から取り組んでいる新たな事業である令和の時代のニーズに合った新たな公園へのリニューアル整備の推進を図る一環として、今回、金沢市内の県営公園５公園について提案を取りまとめ、提出した。

岸会長は「今回、要望書とともに昭和から平成初期の時代に整備された県営公園のリニューアル整備への提案を協会として取りまとめ、提出した。今後の公園のリニューアル整備の検討にあたっては、我々の提案を是非とも参考にしていただければ」と話した。

令和4年10月25日(火)　建設工業新聞

グリーンインフラで危機回避を

涌井氏が創立40周年で記念講演

石川県造園緑化建設協会

石川県造園緑化建設協会(岸省三会長)は21日、協会創立40周年記念講演会「『人と自然の空間的共存』～景観十年、風景百年、風土千年～」を金沢市昭和町の石川県立音楽堂コンサートホールで開催した。講師は造園家で東京都市大学特別教授の涌井史郎氏が務め、会員ら約130人が講演を熱心に聴講した。

講演する涌井氏

冒頭、主催者として岸会長が「今年は協会の創立40周年という節目を迎えるため、これを記念して涌井先生を講師に迎えて造園業界の皆様に喜んでいただけるような講演会を企画した。時間のある限り聴講をお願いしたい」とあいさつ。

続いて涌井氏が壇上に立ち、地球全体や日本、都市、地方、さらに人の心に差し迫っている5つの「危うさ」を指摘した上で、これらの危機に対してどのように対応すべきかについて、人間と自然の持続的未来に向けたさまざまな方向性を示唆した。

この中で涌井氏は、人類中心のエゴから自然との共生を目指すエコへの発想の転換を提起。プラネタリー・バウンダリー(地球の限界)への最も有効な回避戦略としてグリーンインフラ(自然資本財)を基礎とする時代、あるいはCO2吸収源である森林整備をはじめ、都市緑化を含めた健康で健全な農林生産空間を維持する時代を目指すべきと訴えた。

また、日本人は日本庭園や里山などに代表されるように自然をうまく味方にしながら共生してきた長い歴史を有してきたことから、これらに誇りを持って世界に向かってアピールしていく一方、国内では中央集権型ではなく、それぞれの地方がその特徴を磨きながら地方同士がDX(デジタルトランスフォーメーション)を活用したネットワークで結ばれる自立・分散型の「地域循環共生圏」を提唱した。

さらに、緑に覆われているGAFAと呼ばれる巨大IT企業本社の事例を紹介しながら「人間はデジタルに触れるほどリアルを求める。それがないと創造力が生まれない」と指摘し、オフィスのみならず都市全体のグリーン化を推進すべきと説いた。

講演後には活発な質疑応答も行われた。最後に涌井氏に協会からお礼の花束が贈呈された。